

「デジタルジャパン」の原案等の策定に関する意見

1. 個人 / 団体の別: 個人
2. 氏名 / 団体名: 非公開
3. 連絡先: 非公開
4. ご意見:

実質的な提案を前に、

新たなシステムを作るという、考えを捨て見直しをするということ前提とする。

電子申告利用者(30個強のシステム)が増えない理由を検討する必要性があります。

端的に言えば、ベンダーと称する方たちの否協力的なありかただと、思っています、電子申告利用を勧める態度が見えない。私はボランティア精神でE-TAX利用のお手伝いをしています。ベンダーは社会貢献と言う意味でもっと積極的に電子申告利用を勧める必要がある。

電子申告の利用は作業工数の削減、CO2の削減効果(提出先への移動に自動車を使わない)があります。

デジタル時代の人材育成方策等について

人材育成というとコンピュータ関連技術をどのよう伝えていくかが、問題だが、現在、第一線で活躍なされているコンピュータ技術者をと思いがちだがこのような方たちは、企業が手放さない、この不況下において仕事をなくしたコンピュータ技術者も多くこのような方たちを向かい入れるということも考えられるが、ここ私が感じている大きな問題があります。

私は現在、中小企業、個人事業に対して、コンピュータ利用に関して指導をしておりますが、IT関連業者がよく、きます、私は素人のふりをして話を聞きますが、その方たちの言葉を聴いていると、いかにコンピュータ用語(カタカナ語)の多い事に驚きます。

しばらく話をきいて、お客様に解りましたか?と聞くとほとんどの場合わからないと答えます。IT関連業者にコンピュータ用語を使わずに説明してあげてくださいというと、シドロモドロになります、シドロモドロというのはコンピュータ用語を平易な日本語に訳せないということ。

また、中小企業、個人事業の方は高齢の方も多くカタカナ語では、通じない事も多い、このような場合はその方の言葉(日本語)を使用して説明する事が必要となります。

うだうだと言いましたが、コンピュータ業界で通じるカタカナ語は一般の方には通じないと言う事を肝に銘じて人材育成の中のカリキュラムとして言葉のポキャブラリーを豊富にする必要があります。

デジタル情報・技術があまり活用されていなかった分野への導入・利用を図る施策

コンピュータ導入による効果をもっともっとやさしい言葉で説かないと、この分野の方は、なかなか付いてきません。

例えば、私がラフに説明した場合、立派な紳士は“なんだ適当だなと”、個人事業者でPC?の方は 気軽に質問がきます。

言い方を替えますが、立派な肩書きをもつ先生が背広を着て、説明しても結果NGです。

私が地元青色申告会でPC指導・相談をしています。初期のころは背広を着て行っていました。現在は普段着で行っています。これは、相談者が気楽にきていただくための手段です。相談者は背広というよろいを着ていると身構え、緊張し聞きたい事も聞けない事がわかったためです

地域にある、公民館などで気楽にコンピュータに触れていただくような、経験の深いシニアを指導者を配置する環境作りが必要では？

* 経験の深いシニア指導者(ポリシーを大事にする方)

デジタル情報流通の円滑化と効果的活用

行政や民間が保有する情報の有効活用、行政内データ連携、書面・対面義務の改善可能性等

この件に関しても、見直しが必要。

従来のシステムで作成されている、

帳票類が必要かどうか？、各帳票で項目がダブっていないか？

複数帳票を単一帳票に移行できるか？

通常使用している帳票にムダはないかという意識を徹底させる

紙資源の利用削減効果は大である。

以上